



高澤酒造場(氷見市)「有磯 曙 大吟醸」、 日本パッケージデザイン大賞金賞を受賞。

高澤酒造場(氷見市北大町)の「有磯 曙(あけぼの) 大吟醸」が、日本パッケージデザイン大賞の金賞を受賞。1月31日「ホテル東京ガーデンパレス」で贈賞式が行われた。入賞・入選作品は、5月刊行の『年鑑日本のパッケージデザイン2019』に収録される予定。



アルコール飲料部門トップの金賞に輝く

同大賞は、日本パッケージデザイン協会(東京)が1985年から2年ごとに開催するもので、今回で18回目となる。今年度は、食品や飲料、化粧品、電機機器など13部門で計1,201点の応募があった。その中から金賞11点、銀賞13点をはじめとする合計38点の入賞作品が決定。「有磯 曙 大吟醸」はアルコール飲料部門トップとなる金賞を受賞した。



デザインは富山スガキ・金森デザインディレクターが担当

デザイン開発を担ったのは、富山スガキ(株)(富山市塚原、須垣貴雄社長)企画デザイン課の金森健司デザインディレクター。氷見から立山連峰越しに望む朝日をモチーフにラベルを考案した。図柄や商品名など過剰なデザインになりがちな日本酒ラベルだが、金森氏がコンセプトにしたのは「シンプル」ということ。徹底して情報を削ぎ落としたミニマルなデザインで、商品の佇まいを際立たせた。

「曙」の字体は、同ブランドで歴代使われてきた「ひげ文字」を採用。伝統的なタイプフェイスとモダンなシンプルデザインが調和したラベルとなっている。

会社のシンボルとしても用いられ

新ラベルへのリニューアル後、「有磯 曙」シリーズの売れ行きは県外市場を中心に好調に推移しているという。高澤酒造場では、立山連峰のシルエットをモチーフにした半円のラベルデザインを、封筒やパンフレット、DM、webサイトデザインなどにも活用。商品パッケージだけでなく、同社のシンボルアイコンとしても広く用いていこうとしている。

金森氏は、「クライアントの理解もあって思い切ったデザインにできた。これからも妥協せず丁寧なデザインを心がけていきたい」と語っている。